dCS

Puccini

Player

Upsampling CD/SACD Player

取扱説明書

株式会社太陽インターナショナル
〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイス 1F
Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778
<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）.....3

初めてのプッチーニ.....4

梱包.....4
安全のための注意.....4
AC 電圧設定.....4
電源ケーブル.....4
メインコンディショナー.....4
設置.....5
使用可能ディスク.....5
使用不可能ディスク.....6
レーザー放射の危険について.....6
結露について.....6

セットアップガイド.....7

表示、フォントの意味.....7
最初に.....7
リモートトランスミッターに電池をセットする.....8
STEP 1：アナログ出力の結線.....9
プリアンプをご使用の場合.....9
パワーアンプにダイレクトに結線する.....9
STEP 2：ディスクの演奏.....9
STEP 3：出力レベルの設定.....10
STEP 4：演奏の機能.....10
STEP 5：マスタークロックを使用する.....11
STEP 6：外部ソースを使用する.....12
STEP 7：デジタル出力の使用.....13

フロントパネル.....14

リアパネル.....16

リモートコントロール 17

ソフトウェア―メニュー 18

メニューの使用 19

INFORMATION メニュー 20

SETTINGS メニュー 21

SET-UP メニュー 22

DISPLAY SETTINGS メニュー 23

SIGNAL GENERATOR メニュー 23

メンテナンス 24

ヒューズの交換 24

ヒューズを交換する 24

保証 25

使用環境 25

ソフトウェア・アップデート 25

仕様 26

問い合わせ先 27

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。
⚠注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

[設置上のご注意]

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

[お手入れについて]

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのプッチーニ

使用前に本項および「セットアップガイド」（P.7）をぜひお読みください。効率的にかつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

本機はご自身にてソフトウェアの更新ができるように設計されております。ソフトウェアアップデートは必要に応じて弊社よりご登録いただいたお客様へ直接更新のご案内をさせていただきます。お買い上げいただきましたら速やかにご登録をお願いいたします。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

- プッチーニ本体
- 取扱説明書
- 保証登録書
- パワーケーブル
- ヒューズ（スペア）
- リモートトランスミッター

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。
本機の保証書は保証登録書での登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

AC 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷を本機に与えかねませんし、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

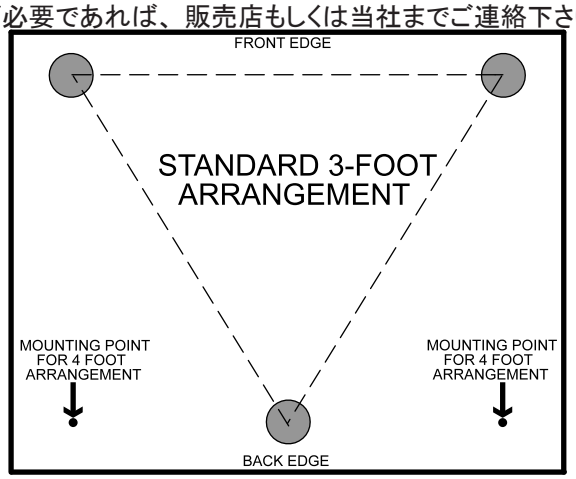
メインコンディショナー

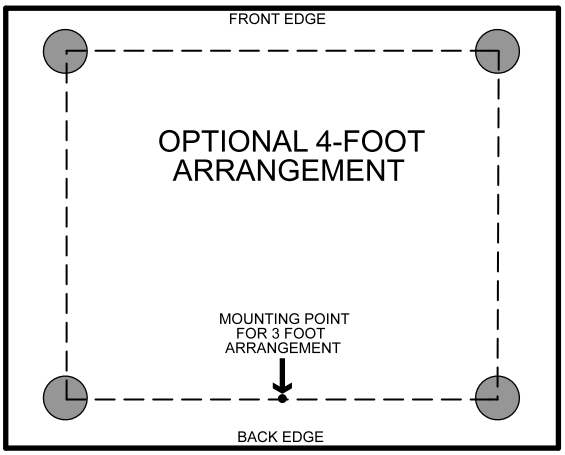
メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意下さい。

設置

プッチーニは積み重ねて使用することは可能ですが、一台ずつラックで使用したほうがより良い音質が得られます。しっかりした、振動しない棚板に載せ、他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

プッチーニは3個の足が標準で付いています。オプションで4点にすることも可能です。
ご必要であれば、販売店もしくは当社までご連絡下さい。





使用可能ディスク

次の商業的に製造された CD を再生することができます。

- 12cm または 8cm の円形ディスク
- リニア PCM デジタルオーディオデータで録音されたディスク
- 「レッドブック」規格に沿って製作され、左のロゴが付いたディスク

次の商業的に製造されたシングルレイヤー SACD もしくはハイブリッド SACD/CD を再生することができます。

- 12cm または 8cm の円形ディスク
- SACD レイヤーが DSD デジタルオーディオデータで録音されたディスク
- 「スカーレットブック」規格に沿って製作され、左のロゴが付いたディスク

CD-R

CD-RW

CD フォーマットのオーディオデータで記録された CD-R または CD-RW ディスクは再生できるかもしれませんが、不具合等起きても責任は負えませんのでご了承下さい。

使用不可能ディスク

下記のディスクを使用して不具合等起こった場合は責任を負えません。

・傷、汚れ、湾曲したディスク
・プリンタブルディスク、ラベルの貼ったディスク
・DVD、CD-G、CD-EXTRA、PHOTO CD、CD-ROM、DVD-ROM
・「レッドブック」CD 標準に従わないコピー保護されたディスク（たとえば CCCD 等）は、正しく演奏しないか、まったく演奏しないかもしれません。

レーザー放射の危険について

プッチーニはUS FDA21CFR項J.をクリアするクラス1レーザー製品となっています。通常の使用においては、レーザー放射による危険はありません。

重要：本機は dCS の認定したサービスのみ修理、メンテナンスが許可されています。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開ける作業はしないでください。

結露について

本機が冷たくて、暖かい部屋に持ち込まれた場合、結露がおきます。結露がおきますと正常な動作をしません。結露がおきたと思われる場合は、室温の場所で 1 ～ 2 時間スタンバイにしておいてください。

セットアップガイド

基本的な動作のためのセットアップガイドです。

表示、フォントの意味

この取扱説明書で使用されている文字色は、下記の内容を示しています。

- **青**：コントロールとコネクターについての記載
- **ピンク**：メニュー、またはセッティング
- **グリーン**：ディスプレイ表示

最初に

本項はメニュー構造詳細についてのチャートと、一般的なセットアップを説明します。

デジタルインターフェイスについては、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- ワードクロックインターフェイスには 75Ω コアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。
- SPDIF RCA インターフェイスには 75Ω コアキシャル RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。

アナログ出力については、オーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- バランス端子 (XLR) には、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- アンバランス端子 (RCA) には、コアキシャル、RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。

まず使用システムの電源を入れます。

本機リアパネルの電源入力に付属の電源ケーブルを接続し、電源を入れる準備をします。

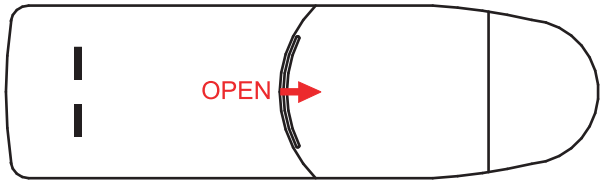
重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この場合の入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

リアパネルの電源スイッチを | の位置にセットします。**Power** ボタンを押すと約 30 秒間で本機はセルフチェックを行います。ディスプレイは次の順で表示されます。**Puccini, Welcome, Loading** 次に **No Disk**

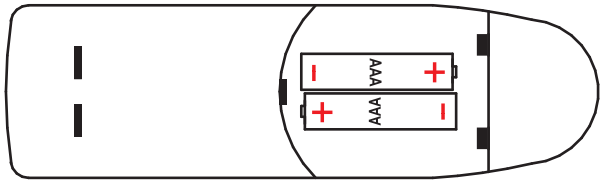
もし本機が上記の表示がさない場合には、次の手順でリセットします。

Menu ボタンを一回押し、次に ▶❚❚ ボタンを 1 度押します。続いて **Menu** ボタンをもう 1 度押すと、**Player Setting** メニューが表示されます。■ ⏏ ボタンを何度か押し、**Factory Reset** メニューを呼び出します。**Menu** ボタンを押し数秒待ちますと、本機は自動的にリセットします。メニューは最後にボタンを押したときから約5秒後に閉じますので、ボタンは比較的早く押して操作してください。

リモートトランスミッターに電池をセットする



リモートトランスミッターの裏にある電池収納のふたを開ける。



図のように極性を直列にするように単 3 電池をセット。
信頼の出来るアルカリ単3電池をご使用ください。

バッテリーを正しくセットしなかった場合にはリモコンユニットに損傷を加えることも考えられます。この事故による損傷は保証の対象外となりますのでご注意ください。

使用済みバッテリーは自己責任で正しく処分してください。

STEP 1：アナログ出力の結線

以下のどちらかを選択します。

プリアンプをご使用の場合

・プリアンプのボリュームコントロールを最低（0）にします。
・バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用しプリアンプの入力と結線します。
・ 本機の **Volume ↑** ボタンを押し、ボリュームレベルを最大にします。ディスプレイには **0.0dB** と表示されます。
・プリアンプのボリュームをお好みのレベルに上げます。

パワーアンプにダイレクトに結線する

・ 本機の **Volume ↓** ボタンを押し、ボリュームレベルを最小にします。ディスプレイには **−60.0dB** と表示されます。
・ バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用しパワーアンプの入力と結線し、パワーアンプをオンにします。
・本機の **Volume ↑** ボタンを押し、お好みのレベルに上げます。

バランス、アンバランス出力は個別にバッファーされていますので、同時に接続することが可能です。

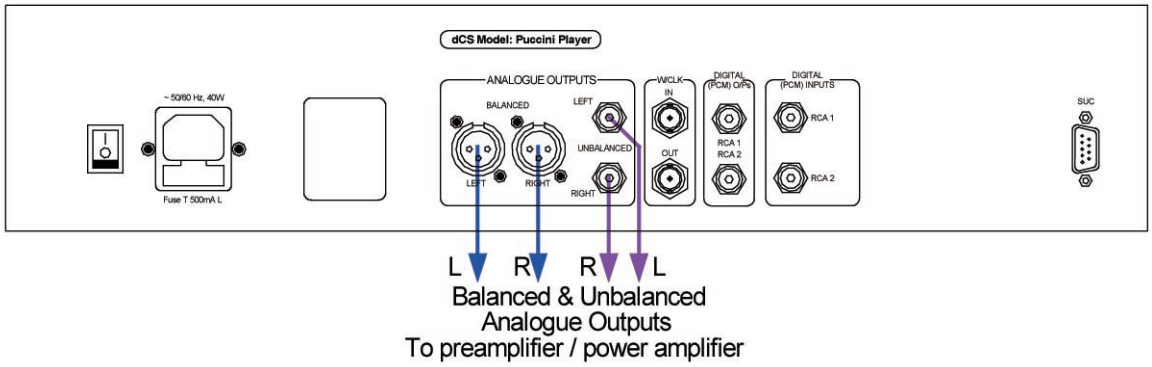


図 1：基本のセットアップ

STEP 2：ディスクの演奏

・■ ⏏を押します。ディスプレイに **OPEN** と表示されます。
・ディスクをトレイに載せ■ ⏏ボタンをもう一度押します。

ディスプレイは **CLOSE** と表示し、次に **LOADING** と表示します。ディスクのタイプ、CD または SACD をディスクの演奏時間と共に表示します。
デフォルト設定ではハイブリッドディスクの場合、SACD レイヤーを演奏します。**CD/SACD** メニューページから（P17 参照）CD を選択すれば CD レイヤーを演奏することも出来ます。

・▶❙❙ボタンを押す。ボリュームを適当なレベルにする。

全てのディスクは、ディスクタイプと残り時間がディスプレイに表示されます。

・▶❙❙ボタンを押し、ポーズにします。演奏に戻るにはもう一度このボタンを押します。
・▶❙または❙◀を押すと次の、またはは直前のトラックに飛びます。
・▶▶ 、◀◀ボタンを押し続けることによって、トラックを通してジョグします。より速くジョグするにはもう一度ボタンを押し（スピード 2）、さらに速くするにはもう一回押し（スピード 3）ます。
・■ ⏏ボタンを押すことによって演奏を停止します。もう一度押すとトレイが開きます。

STEP 3：出力レベルの設定

プリアンプでの音量設定が適当な音量より高いかもしくは低い場合には出力レベル設定をする必要があるかもしれません。

注意：出力レベル 6V の設定はプリアンプによってはオーバーロードとなり、歪みが発生することもあります。そのため、プリアンプを使用する場合には 2V の設定を推奨します。

同様に、パワーアンプに直接結線してご使用の場合でも、適正音量レベルが **−10.0** より高いか（**−0.0** に近い）、**−20.0** より低い（**−60.0** に近い数値）の時は、出力レベルを切り替えます。

・ **Menu** ボタンを押し、▶||ボタンを一度押します。次にもう一度 **Menu** ボタンを押します。ディスプレイは **Set-up**（設定）メニューを表示します。▶||ボタンを数回押し、**Analogue Out**（アナログ出力）メニューを開きます。**Menu** ボタンを押して、出力設定を変更します。

もし設定出力が **2V** で、音量が **−20.0** 以下の場合には、パッシブアッテネーターなどのご使用を考慮なさってください。

注意：輸送中に出力リレーが動いてしまい、片チャンネル、または両チャンネルとも期待より高いか、低いレベルに意図せずに設定されてしまった場合があります。この修正にはアナログ出力設定 (Analogue Out) によって 2V, または 6V を設定して、オリジナル設定に戻ります。

STEP 4：演奏の機能

リモートトランスミッターはトラック番号の選別、トラックまたはディスクのリピート、トラック番号のプログラムなどのコマンドができます。

例えばトラック 5 を選別する場合、**5** のボタンを押し数秒待つか、あるいは **0**、**5** と続けて押すことによって、トラック 5 が演奏されます。後者の方法が早くアクセスできます。

Repeat ボタンを何回か押すことによって演奏中のトラックがリピートされます。

Repeat track：演奏中のトラックをリピート演奏

Repeat Disc：演奏中のディスクをリピート演奏

Repeat Off：通常のオペレーションとなります。

ディスクの演奏を止め、**Program** ボタンによって演奏するトラックの順番を設定します。次に、演奏順にご希望のトラック番号を押していきます。番号は 2 桁の番号を押すことを推奨します。

例えば、**Program**、**05**、**04**、**06**、**Play** と押せば、トラック 5、トラック 4、トラック 6 と順番に演奏します。本機は **6PGM3** と表示します。6 は選択された最終トラック番号で、3 は順番に選択されたトラックの総数を表します。最後のトラックを消す場合には **Clear** ボタンを押します。（この例ではトラック 6）ディスプレイは **4PGM2** と表示します。

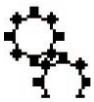
Program をもう一度押すとプログラムモードのキャンセルになります。本機は **Program Off** と表示します。CD トレイを開けることによってもプログラムモードのキャンセルになります。

STEP 5：マスタークロックを使用する

プッチーニ U- クロックなどの専用マスタークロックによって本機をロックさせると、音質の向上が見られます。もしマスタークロックをお持ちではない場合は、本項は不要です。

・マスタークロック周波数を 44.1kHz にします。ワードクロックの出力を本機の **W/Clk Input**（ワードクロック入力）に接続します。BNC 端子による接続です。

ロッキングを行っている最中にはシンクロアイコンはグレーで表示されます。



本機がロックするとアイコンは色濃く表示されます。

? と同時に表示されたときは、本機はクロックにロックされていないことを示します。本機は検出しようとしましたが、クロック信号が見つからなかったときです。（例えば、周波数が違っていたときなどです）本機は自身のクロックを引き続き使用します。

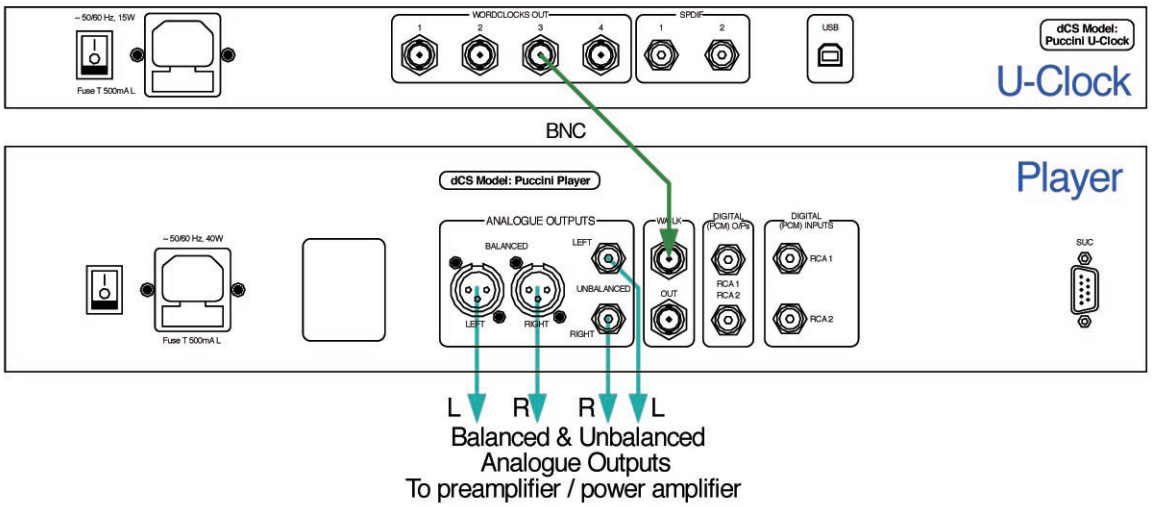


図 2：プッチーニ U- クロックを使用する

STEP 6：外部ソースを使用する

プッチーニの内部リング DAC を外部デジタルソースの DAC として使用することも出来ます。本機は 32,44.1,48.88,2,96,176.4,192kS/s にロックし、ワードレングスは 24 ビットでプロセスされます。外部ソースをご使用にならない場合には、この項は不要です。

- DVD などの外部ソースのデジタル出力を本機の **RCA1 IN**、**RCA2 IN** の入力コネクターに接続します。この場合にはデジタル信号用のケーブルをご使用ください。ご希望なら両方の入力を使用することが出来ます。
- リモートトランスミッターの **Input+**（入力 +）ボタンを押し、**RCA1** または **RCA2** の入力を選択します。

  本機はソース信号のサンプル信号を検出し、ワードレングスを表示します。（例：16/44.4k）
- ボリュームを適当なレベルに調整します。この段階でオーディオ信号が流れてくるはずで、後は音楽を楽しむだけです。

  注意:デジタル入力をご使用の場合、CD コントロール、出力は作動しませんのでご注意ください。

- ディスクモードに戻るときは、RCA ピン表示 1 または 2 がクリアーになるまでリモートトランスミッターの **Input+**（入力 +）を一二度押し、そして、メカニズムが再起動（リブート）されます。

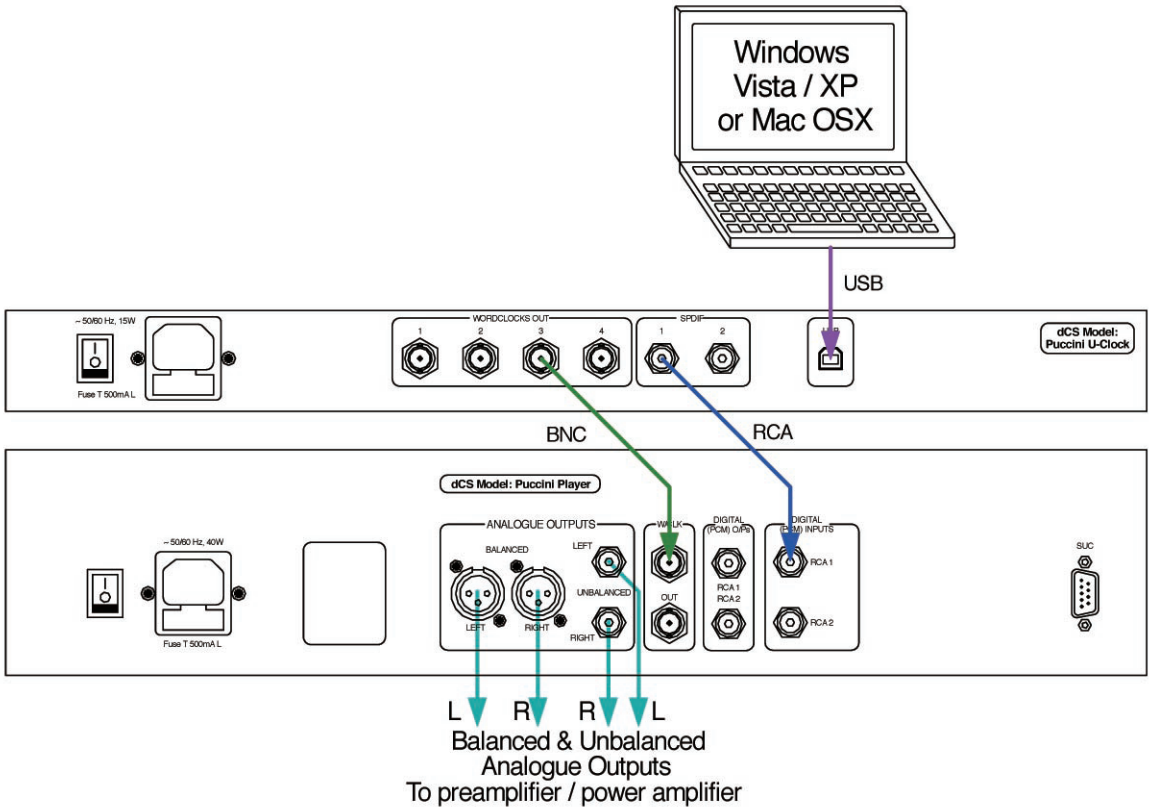


図 3：プッチーニ U- クロックをプッチーニプレーヤーで使用する

上図は、プッチーニ U- クロックを使用し、コンピュータの音楽データを演奏する場合の接続図です。設定は本機のメニューを開けて、**Set-up**/**Clocking**/**RCA1 Clock Setting** ページを **Clock** にセットしてください。もしオプションの外部入力 DSD アップサンプリング機能がアップデートされていましたら、**Set-up**/**Upsampling**/**RCA1 Upsampling** ページを **DSD** にセットしてください。さらに詳しくは U- クロック取扱説明書を見てください。

STEP 7：デジタル出力の使用

大半のプッチーニオーナーの方々は、プッチーニの内部リング DAC を使用し、パワーアンプをダイレクトにドライブなさっています。そのような使用方法をご希望でしたら本項は不要です。

CD を演奏中 16bit/44.1kS/s デジタルデータが **RCA1** または **RCA2** 出力コネクターに現れます。この信号で外部 DAC を使用しての演奏も出来ます。

- 本機のデジタル出力（RCA）にデジタルケーブルを接続します。
- お持ちの DAC のアナログ出力をプリアンプ、またはパワーアンプと接続します。
- パワーアンプをスピーカーと接続します。

プッチーニはプレイヤーであり、トランスポートではありません。従って SACD データを PCM にダウンサンプルしません。デジタル出力は SACD 演奏中、またはデジタル入力をご使用の際には作動しません。

セットアップは完了しました。

演奏を終了したら、スリープモードにして本機をあたためておくか、（**Power** ボタンを一度押す）完全にスイッチオフします。（**Power Down** と表示されるまでパワーボタンを押し続けます）

フロントパネル

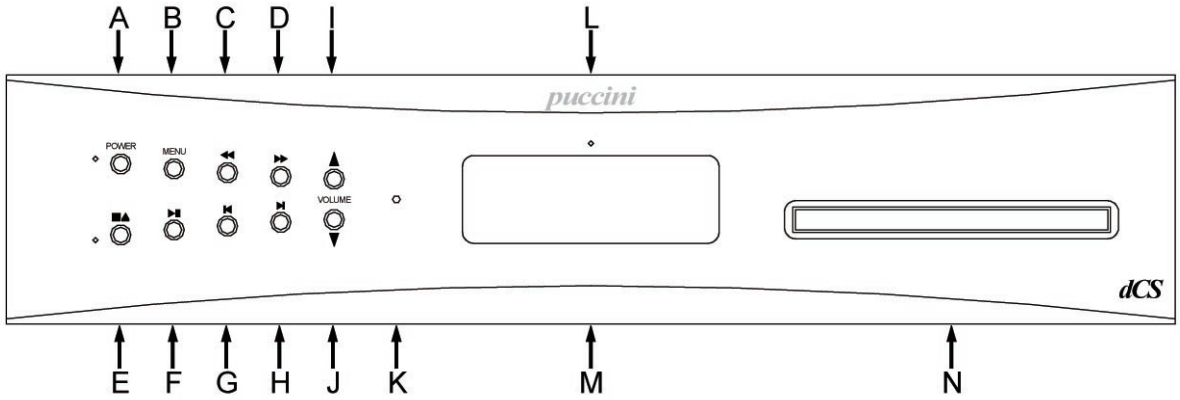


図 4：フロントパネル

(A) **POWER** ボタン

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを **I** にセットし、このボタンを押します。オンオフはリモートトランスミッターでは出来ません。

スリープモードにするには **POWER** ボタンを軽く押します。ディスプレイは消え、ボタンの上に位置する LED が点灯します。この状態で出力はミュートとなります。しかし、本機は作動状態に近い温度になっています。もう一度 **POWER** ボタンを押せば、作動状態になります。

スイッチオフにするには **POWER** ボタンをディスプレイが **POWER OFF** と表示するまで、約 5 秒押し続けます。

メニューが開いているときは、**POWER** ボタンによってメニューを閉じます。

(B) **MENU** ボタン

このボタンを押すことによってメニューが開きます。メニューページを選択しセッティングを変更します。18 ページのメニューセクションをご参照ください。

(C) ◀◀ (**JOG BACK**) 早戻しボタン

ディスクが演奏状態にあるとき、このボタンを押すと現在のトラックから早戻しします。もう一度ボタンを押すと速く早戻しされ（スピード 2）、さらにもう一度押すとより速く早戻し（スピード 3）します。4 度目にこのボタンを押すと通常のプレイモードに戻ります。トラック 1 のスタートに戻れば、プレイモードに戻ります。

(D) ▶▶ (**JOG FORWARD**) 早送りボタン

ディスクが演奏状態にあるとき、このボタンを押すと現在のトラックから早送りします。もう一度ボタンを押すと速く早送りされ（スピード 2）、さらにもう一度押すとより速く早送り（スピード 3）されます。4 度目にこのボタンを押すとプレイモードに戻ります。トラック 1 のスタートに戻れば、プレイモードに戻ります。

(E) ■⏏ (**STOP / EJECT**) ボタン

STOP/EJECT ボタンによって演奏を止めることが出来ます。もう一度押しますと、CD トレイが開きます。更に押せば、CD トレイは閉まります。

メニューが開いている場合は、このボタンは←ボタンとして機能します。メニューページを戻していきます。

RCA1、**RCA2** 入力が選択されているときは、このボタンは **MUTE**（ミュート）ボタンとして動作します。本機がミュートされているとき、または外部ソースにロックされていない時はボタン左の LED が点灯します。

(F) ▶❚❚ (**PLAY / PAUSE**) ボタン

ディスクが読み取られた後、**PLAY/PAUSE** ボタンによって演奏を開始します。演奏中に押せばポーズ状態になり、更に押すと演奏状態に戻ります。

メニューが開いている場合は、このボタンは→ボタンとして機能します。メニューページを進めていきます。

(G) ⏮トラック戻しボタン

このボタンによって前のトラックに戻ります。またはディスクが演奏状態にある場合には、そのトラックの最初に戻ります。この機能はディスクがポーズ、または停止しているときに使用するのが便利です。

(H) ⏭トラック送りボタン

このボタンを押すことで、次のトラックに進みます。最終トラックの時に押した場合、トラック 1 に戻ります。

(I) VOLUME（ボリューム） ↑ / ↓ボタン

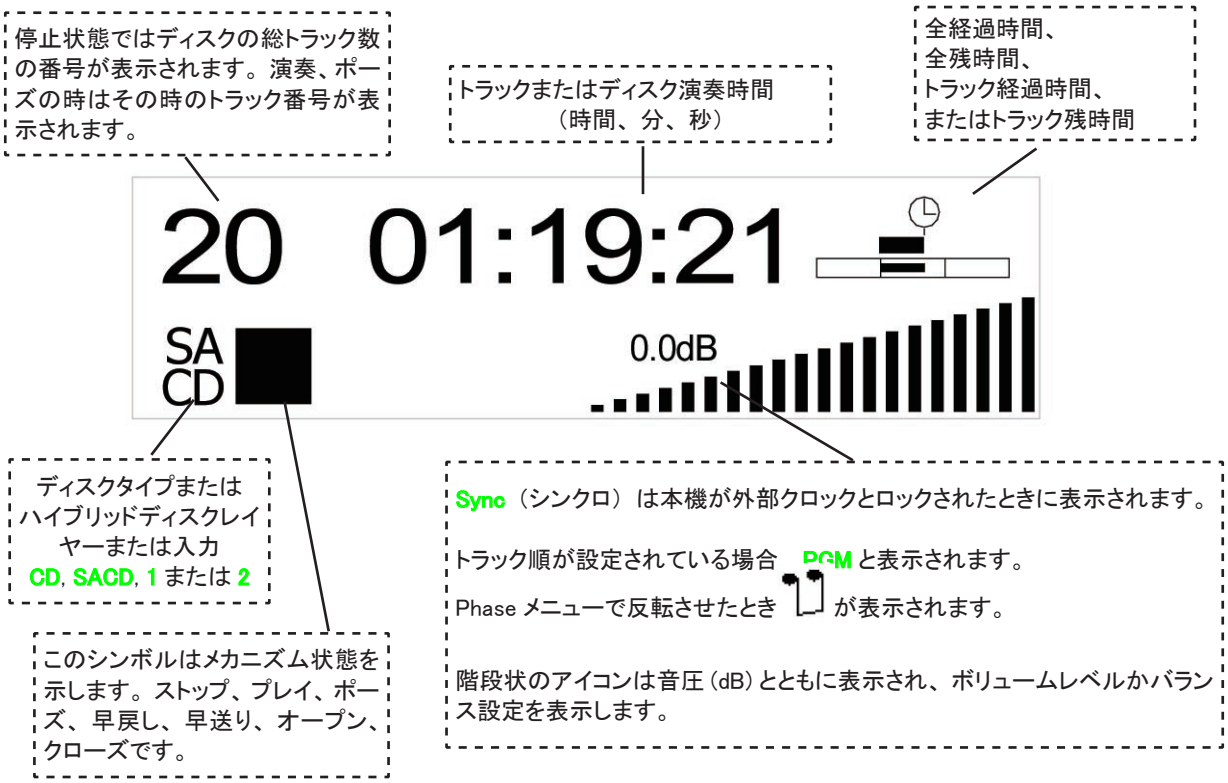
ボリューム↑ボタンを押すとボリュームが上がり、 ↓ボタンを押すと下がります。

(K) リモートコントロールレシーバー

リモートトランスミッターをレシーバーへ向けて操作してください。

(M) ディスプレイ

通常の使用では、6 つの部分に分かれます。



Display Settings の Display Off（ディスプレイオフ）によってディスプレイが消されているときにはディスプレイの上部にある LED が点灯します。

(N) CD トレイ

CD、SACD ディスクを載せるトレイです。ディスクを上向きで中心部に載せます。

リアパネル

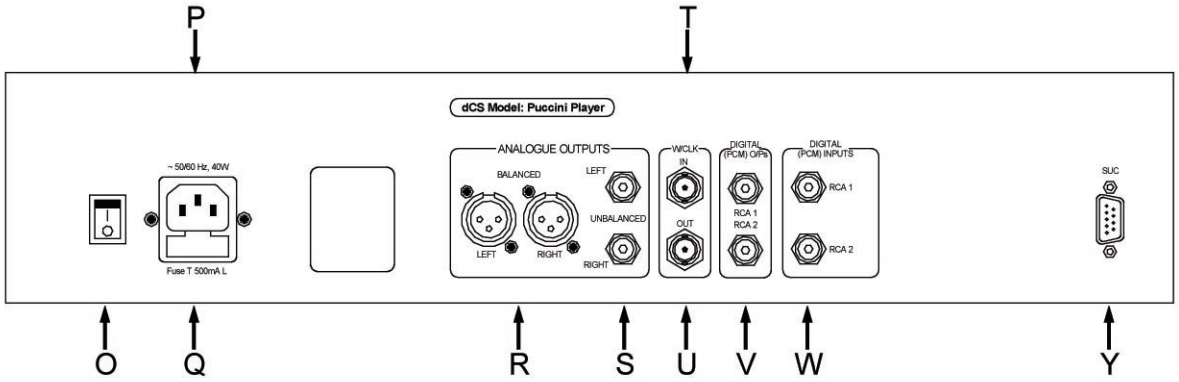


図 5：リアパネル

(O) パワースイッチ

(P) 電源プラグ入力

IEC320 標準コネクター用端子です。

(Q) 保護フューズ

R),(S) **Analogue Outputs**（アナログ出力）

(R) は XLR コネクターによるバランス出力で、プリアンプまたはパワーアンプのバランス入力に接続します。2または3番ホットで1番グラウンドのバランス入力以外にはご使用しないでください。接続される機器が XLR でもアンバランスの場合にはアダプターを介して、本機の RCA 出力から結線します。

(T),(U) **Word Clock** 入出力

W/Clk In（入力）端子 (T) は標準の 44.1kHz ワードクロックをマスターモードに設定された DAC、またはマスタークロックから受け取ります。デジタル入力が使用された場合、**W/Clk In**（入力）は動作しません。

演奏中 **W/Clk OUT**（出力）端子 (U) は 44.1kHz ワードクロックを発信します。デジタル入力が使用されているときにはワードクロック出力は動作しません。

ワードクロックはシンクロのためのみに使用されます。オーディオデータは通しません。

(V) DIGITAL（デジタル）入力

2 本のコアキシャル SPDIF 入力を備え、**RCA1**、**RCA2**(V)と表示されています。これはリモートトランスミッターによって、**Input +/−** ボタンで、またはメニューページ→ **Setting** → **Source**（ソース）で選択されます。この入力は 24 ビット PCM デジタルデータを 32,44.1,48.88,2,96,176.4,192kS/s のデータで受け付けます。

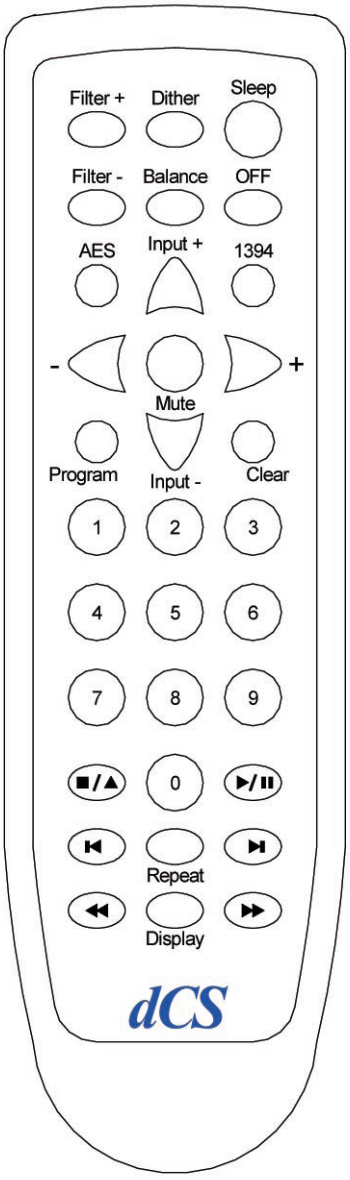
(W) DIGITAL（デジタル）出力

本機は 2 個のコアキシャル SPDIF 出力 RCA コネクター **RCA1**, **RCA2** (W) 用意しました。この端子は CD 演奏時には CD フォーマットデータ (16 ビット /44.1kS/s) のみを出力させます。SACD デジタル入力が使用されているときには動作しません。

(Y) **SUS** 端子

RS232 インターフェイス。主に検査のためのオートテストに使用します。

リモートコントロール



Sleep（スリープ）ボタンを 2 秒ほど押しますとプッチーニはスリープモードに入ります。**Sleep** ボタンをもう一度押すと、通常の動作に入ります。**OFF** を押すと、システムはオフとなります。

（**Dither**（ディザ）ボタンは dCS クロックのディザをオン・オフにします。）

Filter+、**Filter−** はフィルター設定を変更します。**Balance** ボタンはバランス調整を行います。

Input+、**Input−** は入力を選択していきます。（**AES**、**1394** ボタンは dCS DAC に使用します）

+、**−** ボタンはボリューム、バランス調整をします。**Mute**（ミュート）ボタンはアナログ出力のミュート、アンミュート（通常の動作出力）機能です。

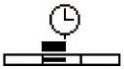
Program（プログラム）、**Clear**（クリア）ボタンは 0 から 9 までの数字ボタンと共に使用して、挿入されたディスクのトラック順序を設定、変更するのに使用します。

0 ～ **9** までのボタンは指定されたトラックにスキップするために使用します。
5 またはは **05** を押せばトラック 5 を選択します。**12** と押せばトラック 12 を選択します。

■▲（ストップ / イジェクト）、▶❚❚（プレイ / ポーズ）、⏮（前のトラック）、⏭（次のトラック）、◀◀（早戻し）、▶▶（早送り）ボタンはフロントパネルと同様の動作をします。

Repeat（リピート）ボタンは次の順序で動作します。
Repeat Track：演奏中のトラックをリピート
Repeat Disc：ディスク全体をリピート
Repeat Off：リピートオフ

Display（ディスプレイ）ボタンは本機の時間表示を変更します。次の順序で変更されます。


Track Elapsed：演奏中のトラック経過時間

Track Remaining：演奏中のトラック残り時間

Total Elapsed：ディスク全体の経過時間

Total Remaining：ディスク全体の残り時間

システムが完全にシャットオフされているときは、（スリープではなく）フロントパネルの **Power** ボタンを押して起動します。リモートトランスミッターによってパワーオンには出来ません。**OFF** ボタンはシステムがスリープモードの時のみ使用できます。

ソフトウェアーメニュー

メニューを進めるには **Step >** を押し、戻るには、**< Step** を押します。
メニューオプションを設定、変更するには **Select** を押します。

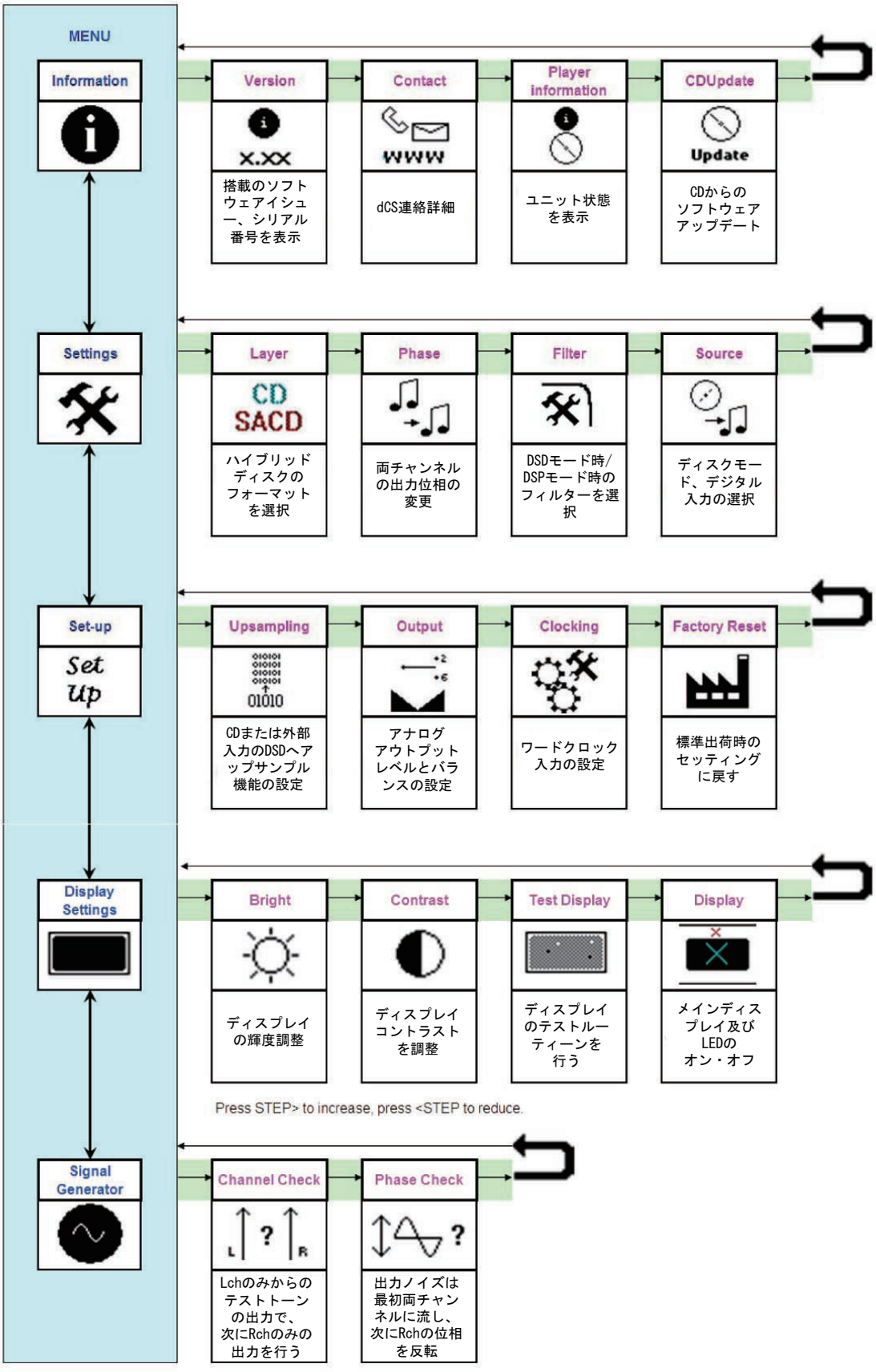


図 6：ファンクションメニューのフローチャート

メニューの使用

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューは 4 つのボタンによって操作します。

- **MENU** ボタンでメニューを開く、またはセッティングを選択
- ▶❚❚（>）ボタンによってメニューのページめくり
- ■⏏（<）ボタンによってメニューのページ戻り
- **POWER** ボタンによってメニューを閉じる、または5秒でタイムアウト

リモートコントロールによってメニューにアクセスも出来ます。

本機には5つのトップメニューがあります。

INFORMATION メニュー
ソフトウェアイシュー番号、シリアル番号、連絡詳細、ソフトウェアアップデート

SETTING メニュー
異なるセッティングを行うメニューで、フロントパネルから直接アクセス出来ないセッティングを行えます。

Set Up

SET-UP メニュー
システムが設置されたときに一般的に変更する設定にアクセスするメニューです。

DISPLAY SETTINGS メニュー
ディスプレイの調整

SIGNAL GENERATOR メニュー
テスト、セットアップ確認事項を含んでいます。

▶❚❚（>）ボタンによって希望のメニューに移動することが出来ます。希望のメニューに移動したら **MENU** ボタンを押します。表示されたメニューを選択し、更に■⏏（<）ボタンによってページを早送りできます。**MENU** を押すとそのページにおいてのセッティングを行えます。

戻りのアイコン によって直前のメニューレベルに戻れます。

INFORMATION メニュー

Version（バージョン）ページでソフトウェアバージョン、フルシリアル番号を表示します。サービス、販売店にご連絡の時はこの番号をお知らせください。

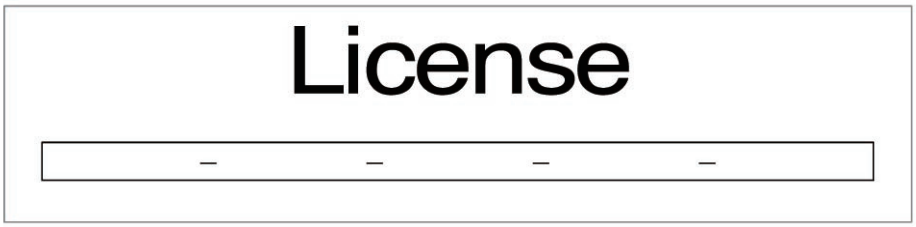
Contact（連絡）ページ。dCS ウェブサイト URL、e メール、電話、ファックス番号を表示します。

Player Information（プレーヤー情報）ページで、ご使用機器の状態を表示します。

- DAC Source: No Disc / CD / SACD / RXA1 / RCA2
- Unlocked / Locked @....
- I/F version: x.xx
- B/E version: x.xx
- F/E version: x.xx
- Features: None / Upsampling
- Key: xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx

（<），
（>）ボタンによってリストをスクロール、MENU ボタンによって戻ります。

有料オプションを追加するためのライセンスキーを入力する画面は Player Information の底にあります。画面をスクロールし、MENU ボタンをしますと、ライセンス入力画面が現れます。



リモコンの数字ボタンを使用し、上記 25 桁のライセンスコードを入力してください。
（リモコンの反応があまり早くないので、ゆっくりと確実に押してください）
25 桁のライセンスコードを入力後、リモコンの Mute ボタンを押してください。
もし入力を間違いましたら、リモコンの Volume +/- ボタンでカーソルを移動し、再度正しい番号を入力してください。
アップデートが正しく完了しますと、Player Information メニューの一番下の Key にライセンスコードが表示されます。

CD Update（CD アップデート）ページはソフトウェアが新しくなったときに使用します。
SACD を演奏中またはデジタル入力を使用中は CD アップデートはできず、アイコンはグレーになります。リモートトランスミッターでは操作が出来ませんのでフロントパネルにて使用してください。

SETTINGS メニュー

Layer（レイヤー）ページはハイブリッドディスクを演奏するときに CD、SACD レイヤーを選択します。選択、使用しているレイヤーは濃く、他のレイヤーはグレーで表示されます。レイヤーを変更するにはディスクを再読込するので Loading... と表示されます。数秒お待ちください。

Phase（位相）は通常 Normal（正相）に設定されています。

Phase（位相）が逆相に設定されると音符 が変わります。この変わった状態ではアナログ出力が逆相になっています。私たちはしばしば録音が逆相で録音されているディスクに遭遇しますので、逆相にすることによって、このエラーを簡単に補正できます。

Filter Setting メニューには DSD Filter モードと DSP Filter モードの 2 種類のモードがあります。

DSD Filter モード

DSD Filter モードには 4 種類のフィルターが用意されています。これらは 1 ビットフォーマットに派生的に付随する帯域外ノイズレベルを確信的に低減させます。

Filter1 は標準設定で、約 70kHz の幅広い帯域を持たせますが帯域外ノイズは一番高いです。もしシステムとして厳しい音であれば、Filter2,3 をお試しください。これらは帯域をある程度犠牲にしつつ帯域外ノイズを減少させていきます。

Filter4 は主にトラブルシューティングのためで、演奏のためではありません。初期段階のカットオフによって、帯域外ノイズを最小限にします。

アップサンプリングオフの状態、外部デジタル入力については CD についてはフィルターは用意されていません。フィルターのアイコンはグレーになります。

DSP Filter モード

DSP Filter には PCM データを再構築するため下記の 3 種類のフィルターが用意されています。音楽や好みによってお好きなフィルターをお選びください。

Classic Filter：一般的なオールラウンドで優れたフィルターです。
Lomg Filter：非イメージングパフォーマンスを改善するための対称形のフィルターです。
Asym Filter：非対称アポダイジング・フィルターです。Lomg Filter と似た周波数特性ですがプレリンギングがありません。

リモートトランスミッターの Mute ボタンで DSD Filter と DSP Filter のモード切替が可能です。
最初に Filter ボタンにて現在のフィルターを確認してから切換を行ってください。
そして Filter+、Filter− ボタンによって各フィルターの素速い設定変更が出来ます。

Source（ソース）メニューページによって、CD, SACD ディスクを演奏するメニューです。

Source（ソース）メニューページで、外部デジタルソースからのデータ入力をデジタル入力の RCA1、または RCA2 を選択します。

デジタル入力が選択されているときは、CD メカニズムはオフの状態となります。
リモートトランスミッターの Input+、Input− ボタンによって素速い設定変更が出来ます。

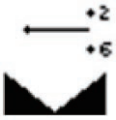
SET-UP メニュー

Upsampling Options（アップサンプリング・オプション）メニューには3つの項目があります。各入力に対して DSD アップサンプルのオン / オフを選択します。

プレーヤーとして使用したとき、左のアイコンの時は CD データをそのまま、右のアイコンの時は DSD へアップサンプリングします。多数の方が DSD へアップサンプルした音を好むでしょう。

外部入力 RCA1, RCA2 使用したとき、左のアイコンの時は入力信号をそのまま、右のアイコンの時は DSD へアップサンプリングします。アップサンプリング機能が稼働されているとき、コネクタアイコンの側に UPS と表示されます。

外部入力のアップサンプリング機能は有料オプション（84,000 円）となります。機能が追加されていない場合は、RCA1, RCA2 アイコンは薄く表示され切り替えることが出来ません。有料オプションをご希望の場合は、販売店または当社へご連絡ください。



Output Settings（出力設定）メニューには 2 つの項目があります。

出力レベルを 2Vrms、6Vrms に切り替え設定します。オーディオシステムをセットアップしたとき、より快適なリスニングレベルでボリュームコントロールを行います。DAC を直接パワーアンプに接続する場合は、最適音圧レベルを −10dB と −20dB 間に持って行くようにすると良いでしょう。
P.10 にシステムにあった出力レベルの設定方法が詳しく載っています。ご参照ください。

Balance（バランス）ページは■▲（<）、▶▌▌（>）によってバランスを調整します。各チャンネルは 0dB ~ −6dB の範囲で調整できます。ステップは 0.1dB です。最小レベル以下は消音（−∞）です。バランス調整が終わったら、メニューを閉じるか、MENU ボタンを押してください。

Clocking（クロッキング）メニューには2つの項目があります。デジタル入力からデータを受け入れている間、これらは DAC をデジタル入力に従動するか、W/CLK IN コネクタに接続しているシステムクロックにロックさせられます。パフォーマンスは、通常、高品質のマスタークロックを使用することによって向上します。

左は RCA1 デジタル入力にスレイブ、右は RCA1 デジタル入力に対し外部クロックにロックします。

左は RCA2 デジタル入力にスレイブ、右は RCA2 デジタル入力に対し外部クロックにロックします。

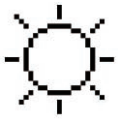
プレーヤーとして使用するとき、44.1kHz のクロック信号を W/CLK IN に入力しますとロックします。

外部クロックを使用するとき、ソース機器は外部クロックにロックされていなければなりません。もし外部クロックにロックしない場合、本機をデジタル入力に対しスレイブに設定してください。
クロック周波数はデータレートの正確なデータ倍数レートでなければなり ません。データレートが 44.1 もしくは 88.2kS/s の場合、クロック周波数は 44.1 または 88.2kHz でなければなりません。

Factory Reset メニューは工場出荷時の標準セッティングにリセットします。

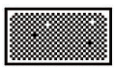
- Volume：−30dB
- Layer：SACD
- DSD Filter：1
- PCM Filter：Classic
- Phase：ノーマル
- Source：Disc
- CD Upsampling：DSD
- RCA1 Upsampling：PCM
- RCA2 Upsampling：PCM
- Balance：センター
- RCA1 Clocking：Audio
- RCA2 Clocking：Audio
- Program：Off
- Repeat：Off
- Display：On, Track Elapsed
- Brightness：最大輝度
- Contrast：40%
- Outout Level：2V

DISPLAY SETTINGS メニュー



Brightness（輝度）をお好みの輝度に設定します。

ディスプレイの Contrast（コントラスト）をお好みのレベルに設定します。



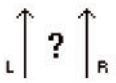
Display Test（ディスプレイ標準テスト）を行います。（メインディスプレイとインジケーターを点滅させる）

ディスプレイと LED インジケーターのオン・オフを行います。

メニューが時間切れになると、ディスプレイは消灯し、ディスプレイ上部の LED インジケーターが点灯します。操作をしますとディスプレイは点灯します。

メニューが時間切れになると、ディスプレイ、ディスプレイ上部及びミュートの LED は消灯します。操作をしますとディスプレイは点灯します。

SIGNAL GENERATOR メニュー



Channel Check：左右チャンネルの接続が正しいかチェックするために行います。ディスプレイが Left（左）と表示している間は左チャンネルのみ出力され、Right（右）と表示している間は右チャンネルのみ出力されます。

Phase Check：位相が正しく設定されているかチェックするために行います。In Phase（正相）と表示している間は両チャンネルから正相のノイズを発します。MENU ボタンを押すと右チャンネルのノイズが反転し逆相となります。その間ディスプレイは Out of Phase（逆相）と表示されます。最初のノイズは中央のイメージング。二回目は中央イメージングではありません。■▲または▶||ボタンを押してテストを終了しメニューに戻ります。

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換

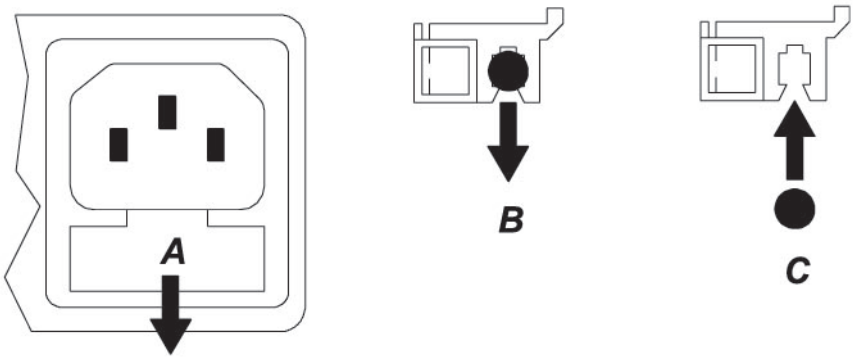


図7：ヒューズの交換

電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A T L ヒューズ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブ（A）を引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズ（B）を押し出し、新しいものに交換（C）してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

保証

当社はお買い上げ時より一年間、本機の不良または正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

以下の場合には保証が適用されませんので、ご注意ください。

- いかなる場合でも本機が誤って使用された場合。
- dCS、当社以外の手によって改造や修理が行われた場合。
- 取扱説明書の使用環境に従っての使用がなされていない場合。
- グランド電源を使用しない場合。
- 不適切な梱包によって返送された場合。

問題が発生した場合にはモデル名、フルシリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題点の出来るだけ詳しい内容を販売店、または当社にお知らせください。修理のためご返送いただく場合には、オリジナルの梱包が安全ですので、梱包材はお手元に保管ください。梱包材が無い場合には有償でお貸し出しいたします。

使用環境

- リアパネルに表示してある電圧（100v）の ±10%。
- 交流電源 49 ～ 62 サイクル
- 使用温度　0℃～ 40℃
- 以下に述べる機器近辺に設置しないこと：暖房機、空気ダクト、パワーアンプ、直射日光
- ご心配の点があれば簡単なテストとして、本機は人間が快適な環境であればまず間違いなく動作します。

ソフトウェア・アップデート

dCS の製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートのサービスを行っております。
ソフトウェア更新の際にはご登録いただいたユーザーの方へ郵送にてご案内させていただいておりますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願いいたします。
ソフトウェア・アップデートについてご不明な点がございましたら 、弊社までお問い合せください。

仕様

ドライブメカニズム	デュアルレーザー、SACD/CD メカニズム
ローディング方式	フロント・ローディング
コンバータータイプ	5 ビット、2.822/3.07MS/s オーバーサンプル、リングダック構成 (全てのデータはアナログ変換以前にこのフォーマットに オーバーサンプルされる)
CD アップサンプリング	CD 演奏中オーバーサンプル以前にデータはアップサンプルする ことが出来る。デジタル入力使用時のアップサンプリングは オプションで可能
デジタル入力	SPDIF（RCA）2 系統 （PCM データを 32, 44.1, 48, 88.2, 96176.4,192kS/s にて受付、24 ビットにプロセス）
デジタル出力	SPDIF（RCA）2 系統 （CD 演奏時には CD フォーマット PCM データのみを出力）
ワードクロック入力	BNC 1 系統 75Ω プレーヤーは標準ワードクロックに 32,44.148,88.2,96kHz にて サンプルレートが正確な倍数であるときにロック
ワードクロック出力	BNC 1 系統 75Ω マスターモードに設定時、44.1kHz クロックをクリスタル オシレーターから ±10ppm の精度で（温度補正無し）出力 この精度は通常数年間安定（但し数年の保証は対象外）
周波数反応 （DSD フィルター 1/ DSP Classic フィルター）	Fs = 32kS/s +/0.1/−0.5dB, 10Hz 〜 15k Hz Fs = 44.1, 48kS/s +/−0.1dB, 10Hz 〜 20k Hz Fs = 88.2, 96kS/s +/−0.1dB, 10Hz 〜 20k Hz Fs = 176.4, 192kS/s +/−0.1dB, 10Hz 〜 20k Hz
残留ノイズレベル	−110dB 以下 20Hz 〜 20k Hz(unweighted)
スプリアス反応	−100dB 以上 (20Hz 〜 20k Hz)
クロストーク	−80dB 以上 20Hz 〜 20k Hz
出力レベル	2V rms、または 6V rms(全出力) メニューで変更
アナログ出力	XLR(M) 1系統（ピン 2= ホット・ピン 3= コールド）
シングルエンド出力	RCA 1系統
電源電圧	100V 50/60Hz
最大外形寸法	W 460 × D 410 × H101 mm
重量	12.1kg

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9　日本橋グレイス 1F

TEL :　03-6225-2777（代表）

03-6225-2779（サービス課）

FAX :　03-6225-2778

ホームページ :　http://www.taiyo-international.com

09-01-2010